

2022 年度

事業報告書

2023 年 6 月 16 日

公益財団法人NHK交響楽団

— 目 次 —

はじめに	1
1 演奏活動	2
(1) 概要 —公演の刷新とサービスの向上—	2
(2) 定期公演	3
(3) 特別公演	6
(4) 全国各地での公演	7
(5) 契約公演	8
2 放送への出演	9
(1) 定期公演、特別公演の放送	9
(2) 大河ドラマ、アニメの録音、出演	9
(3) 国際放送	10
(4) 放送記念日式典	10
3 広報・プロモーション	10
(1) 夏のしぶやN響まつり	10
(2) アニメ「青のオーケストラ」との連動	11
(3) 地域放送局とのタイアップ	11
(4) 演奏会動画の配信	11
(5) ホームページのリニューアルとSNS	12
(6) 外国人への取り組み	12
(7) N響創立100年に向けたプロジェクト	13
4 社会貢献活動	13
(1) 財団統合に向けた取り組み -聴覚障がい者の鑑賞 新しい教育プログラム-	13
(2) NHKこども音楽クラブ	14
(3) N響といっしょ！音を楽しむ！！	14
(4) 児童・生徒のバックステージツアー	14
(5) 被災地を応援する活動	14
(6) 病院・施設への訪問	15
(7) 子供や留学生の招待	15
(8) 公的団体と連携した室内楽演奏、音楽セミナー	15
(9) N響アカデミー	15
5 特別支援・賛助会員・寄付	16
(1) 概要	16
(2) リハーサル公開	16
6 マネジメントの高度化と経営基盤の強化	16
(1) 財団統合の準備とマネジメント高度化	16
(2) テレワーク環境と情報セキュリティー	17
(3) 安心して働ける職場環境の整備	17
7 顕彰の実施	18
(1) 尾高賞	18
(2) 有馬賞	18
8 法人の概況	19
9 処務の概況	20
10 理事および監事に支払った報酬の額	22
(参考資料)	23

はじめに

NHK交響楽団にとって 2022 年度は、新しい首席指揮者ファビオ・ルイーゲの就任と 2 年ぶりとなる NHK ホールでの定期公演再開を契機にコロナ禍からの復活を目指す年となった。

ファビオ・ルイーゲをはじめ、95 歳の桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテット、各国で人気が高いトゥガン・ソヒエフら、世界的な名指揮者が次々と来日し、N 響ならではの豪華なサウンドをお届けすることができた。

2022 年度は、N 響が伝統を守りつつさらに進化するために、前例のない数多くの新しいプロジェクトに挑戦する一年でもあった。若い世代にファンを広げるため、8 月には、「夏のしぶや N 響まつり」と題して、新シーズンの聴きどころを集めたウェルカム・コンサートや街角ライブを開き、ユースチケットも一般の半額以下とかつてない割引幅を取り入れた。カーテンコール中のスマホ撮影を国内のオーケストラで初めて解禁してクラシック業界のファンサービスの在り方に一石を投じた。また、公式 YouTube を通じた演奏会の動画配信を一気に増やすなどプロモーションを強化した。こうしたお客様との絆を深めるための様々な取り組みも成果を上げ、定期会員数はコロナ前の 9 割程度まで回復している。

地域への貢献にも一層力を入れた。5 月の沖縄本土復帰 50 年記念公演をはじめ、全国 30 か所以上でオーケストラ公演を実施した。楽員が全国の小中学校を訪ねて音楽の魅力を伝える「NHK こども音楽クラブ」や各地で繰り広げる室内楽コンサートをあわせて 70 回以上開催し、親しまれる N 響を目指して、地域に密着する取り組みを重ねた。

NHK 交響楽団は、2023 年 4 月、新しく合併して誕生した NHK グループの財団と統合した。社会貢献活動を強化するため、統合に先駆けて双方のノウハウを結集し、音楽を通じた教育プログラムの開発に着手した。

世界各地で国家間の対立や分断が激しさを増している。音楽には、国境を越えて人と人とを結びつける力があり、N 響もその役割を担うべき時に来ている。2026 年創立 100 年に向けて、皆様の人生に彩りをお届けし、社会に貢献するオーケストラとしてさらに進化する努力を続けて行く。

1. 演奏活動

(1) 概要 —公演の刷新とサービスの向上—

2022 年度は、コロナ禍やNHKホールの休館によって遠のいたお客様に再び戻って来て頂くため、公演やサービスの改革に取り組んだ。

①新しい首席指揮者の就任

2015 年から首席指揮者を務めてきたパーヴォ・ヤルヴィ（現名誉指揮者）に代わり、2022 年 9 月、オペラを含めたドイツロマン派の旗手として活躍するファビオ・ルイージが就任した。就任に先立つ 5 月に記者会見を開催するとともに、NHKの協力のもと Eテレの番組やニュースで特集として取り上げられた。定期公演は、9 月と 12 月の全プログラムをファビオ特集として編成し、N響の新しい顔をアピールした。

②新しいスタイルの公演 — “夏のしぶやN響まつり” —

当団の定期会員数は、2019 年以降、NHKホールの改修工事に伴う会場移設（池袋）やその翌年に拡大したコロナ禍の影響で大きく落ち込んだ。この回復を図るため 2022 年 9 月の定期公演 2022-23 シーズンの開幕の 2 か月前から “夏のしぶやN響まつり”（7 月～8 月）と題したキャンペーンを展開した。このうち公演活動では、新シーズンの聴きどころを選び出して初心者にも親しめるように編成した「N響ウェルカム・コンサート」、本格派に向けた「N響室内楽コンサート」、公園通りでの路上ライブなど、これまでにないスタイルの公演を渋谷で集中的に開催した。（「3. 広報・プロモーション」の項を参照）

③カーテンコールの撮影解禁

これまで国内のクラシックコンサートは、客席からの舞台上の撮影が原則禁止されてきた。しかし、長年にわたるお客様の要望に応え、2022 年 8 月、演奏終了後のカーテンコール中のスマートフォン撮影を日本で初めて解禁した。お客様からは好評を頂き、SNSへの映像の拡散は大きな宣伝効果にもつながった。業界の先陣を切った取り組みは、瞬く間に他のホールや楽団にも波及した。

④ユースチケット等の格安チケット

25 歳以下の割引サービス「ユースチケット」は、定期公演 2022-23 シーズンから全券種で割引率を 50%以上に改めて一般の半額以下でも聴けるようにすると

ともに、NHKホールの1回券E席（Cプログラム）は最低の800円でも楽しめるよう改定した。また「N響ウェルカム・コンサート」では、ペアチケット（2枚1組）2000円やユースチケット（25歳以下）500円という破格な特別料金を設けるなど、若者や初心者の方に気軽に足を運んでもらうサービスに取り組んだ。その一方で、海外からの招へい費用がかさむ公演の料金を高めにしたり、ソリストの出演を控えるプログラムを編成したりするなど収支のバランスに配慮した。

（2）定期公演

2022年4月から2023年2月まで、26プログラム52公演を実施した。

（2022年）

【4月】

近年、N響との関係を深めている巨匠クリストフ・エッシェンバッハが、得意中の得意であるドイツ音楽を披露。Aプロはベートーヴェン「交響曲第7番」ほか、Cプロはマーラーの代表作「交響曲第5番」。Aプロでは、エッシェンバッハが期待を寄せる若手フルート奏者、スタティス・カラパノスをソリストに起用した。

（※）サントリーホールの改修工事のためBプロはなし。

【5月】

Aプロでは「東京・春・音楽祭」で縁の深いマレク・ヤノフスキがシューベルトの代表作「交響曲第8番」など、ドイツの名曲を指揮。首席指揮者に就任間近のファビオ・ルイージは、Bプロでリムスキー・コルサコフの交響組曲「シェエラザード」など「海」にゆかりのあるプログラムを、Cプロでモーツァルト「ピアノ協奏曲第20番」、ベートーヴェン「交響曲第8番」など、ウィーン古典派の名曲を指揮した。

【6月】

ステファヌ・ドゥネーヴが2つのプログラムに登場。Aプロではフロラン・シュミット「サロメの悲劇」など、異国を題材にした文学作品からインスピレーションを受けたフランス音楽を、Cプロではガーシュウィン「パリのアメリカ人」など、アメリカとフランスの関わりがテーマの特徴的なプログラムを披露した。

Bプロでは国内外で大活躍の鈴木優人が、バッハ・モーツァルトと20世紀の作品を組み合わせた。ブリテンの協奏曲では、ゲスト・アシスタント・コンサートマ

スターの郷古廉が卓越した演奏で聴衆の心をさらった。

【9月】

ファビオ・ルイージの首席指揮者就任を記念して、Aプロでヴェルディの記念碑的傑作「レクイエム」を演奏。世界最高峰の歌手を招いた本公演は、シーズンの目玉となった。名手ジェームズ・エーネスによるベートーヴェン「ヴァイオリン協奏曲」とブラームス「交響曲第2番」を組み合わせたBプロ、交響詩「ドン・ファン」や歌劇「ばらの騎士」組曲など、ルイージ得意のリヒャルト・シュトラウスを並べたCプロも、大きな反響を呼んだ。

【10月】

95歳の桂冠名誉指揮者ブロムシュテットが元気に来日し、すべてのプログラムを指揮した。Aプロは演奏時間が80分を超えるマーラーの大曲「交響曲第9番」、Bプロはグリーグ「ピアノ協奏曲」とニルセン「交響曲第3番」を組み合わせた北欧の名曲、Cプロは巨匠が限りない愛情を注ぐシューベルトの初期の交響曲で、いずれも記録的な入場者数となった。

【11月】

Aプロは井上道義がライフワークとするショスタコーヴィチの「交響曲第10番」と、同じくお家芸である伊福部昭「シンフォニア・タプカーラ」。迫力満点の演奏が強い印象を残した。Bプロではレナード・スラットキンが、生誕150年となるヴォーン・ウィリアムズの知られざる傑作を披露。メンデルスゾーン「ヴァイオリン協奏曲」では、レイ・チェンが稀有な個性を存分に発揮した。Cプロは“アメリカ音楽の伝道師”スラットキンによる、コープランドの2つのバレエ音楽、「アパラチアの春」と「ロデオ」。

【12月】

首席指揮者ファビオ・ルイージが3プログラムすべてを指揮。Aプロは日本が誇るワーグナー歌手、藤村実穂子による「ウェーゼンドンクの5つの詩」と、ブルックナーの「交響曲第2番」。Bプロは河村尚子のソロによるラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」、ドヴォルザークの交響曲第9番「新世界から」というおなじみの名曲プログラム。Cプロのモーツァルト「交響曲第36番「リンツ）」と、メンデルスゾーンの交響曲第3番「スコットランド」は、「旅」をキーワードにお送りした。

(2023 年)

【1月】

世界中で引く手あまたの名指揮者トゥガン・ソヒエフが、変化に富んだ3つのプログラムを指揮。Aプロはベートーヴェン「交響曲第4番」など、ドイツ音楽の名曲。Bプロはベルリン・フィル首席奏者のアミハイ・グロスを迎えたバルトークの遺作「ヴァイオラ協奏曲」と、ドビュッシー「海」など20世紀フランスの傑作。Cプロのラフマニノフ「岩」と、チャイコフスキーの交響曲第1番「冬の日の幻想」は、どちらもロシアの大作曲家が若き日に手がけた意欲作。

【2月】

Aプロでは正指揮者・尾高忠明が、ライフワークである父・尚忠とその友人たちの代表作を取り上げた。残る2プログラムには、世界的注目を集める俊英ヤクブ・フルシャが登場。Bプロは祖国チェコを含む東欧の作品とブラームス「交響曲第4番」。シマノフスキの交響曲第4番「協奏的交響曲」では、ソロのピョートル・アンデルジェフスキが独自の音色で聴衆を魅了した。Cプロはロシアとアメリカの2つの「シンフォニック・ダンス」。意外性のある組み合わせが期待以上の効果を生んだ。

■定期公演入場者と定期会員（席）数■

2022年度の定期公演は、4月から6月の入国制限などで券売期間に制約があったものの、コロナ禍以降では初めて年度を通して客席の入場制限を受けず、全プログラムをほぼ計画通り開催できた。2023年3月末現在の入場者数は、95,201人で、コロナで深刻な影響を受けた2021年度(※) (58,806人)に比べると61%増加した。一方、コロナ前の2019年度(109,778人)に比べると13%の減少となった。2022年度は、コロナとは別に、休館中のNHKホールに比べて客席数の少ない会場での公演(A, Cプロ)が6月まで続いたうえ、サントリーホールの改修工事で4月の2公演(Bプロ)を休止するなど、2022年度特有の減少要因があったことも影響している。

定期会員（席）数は、2023年3月末現在で7,775人となった。これは2021年度(6,412人)に比べて21%(1,363人)の増加、コロナ前の2019年度(8,229人)に比べると5%(454人)の減少となっている。コロナやNHKホールの休館によって入場者数や定期会員数は大きく落ち込んだが、ともにコロナ前の水準の9割前後(入場者87%、定期会員95%)まで回復してきている。

※ 2021年度は、4月～6月の公演を、定期公演に代わる「定期代替公演」として例年と同じ回数で実施。入場者数は、この「定期代替公演」と9月以降に正常化した定期公演の総数。

(3) 特別公演

定期公演以外に、当団主催で以下の公演を行った。

①Music Tomorrow 2022

優れた現代音楽作品を取り上げて、新たな音楽文化の創造に寄与することを目的とした演奏会。イスラエルの俊英イラン・ヴォルコフの指揮で、第69回尾高賞を受賞した西村朗《華開世界—オーケストラのための》と岸野末利加《チェロとオーケストラのための「雷神の言葉」》を演奏。また当団が共同委嘱に加わった細川俊夫《ヴァイオリン協奏曲「ゲネシス」》を、郷古廉のソロで日本初演した。演奏会の冒頭では第69回尾高賞の授賞式を行った。

(7月1日 東京オペラシティ)

②N響「夏」2022 (“夏のしぶやN響祭り”)

ファン層の拡大を目的に、親しみやすい名曲を送るコンサート。正指揮者・尾高忠明の指揮、小曾根真のソロで、ラフマニノフ《ピアノ協奏曲第2番》、チャイコフスキー《交響曲第4番》を演奏した。

(7月15日 NHKホール)

③松山定期演奏会

愛媛県内の多くの企業に協賛を頂き、毎年行っているコンサート。出演者・プログラムは②と同じ。

(7月17日 愛媛県県民文化会館)

④N響ほっとコンサート (“夏のしぶやN響祭り”)

夏休みに行う青少年・ファミリー向けのコンサート。第1コンサートマスターの篠崎史紀とオーディションで選んだ小学生が共演するバッハ「2つのヴァイオリン協奏曲のための協奏曲」や、首席チェリスト・辻本玲のソロで送る林光「セロ弾きのゴーシュ」といった多彩なプログラムを、ムロツヨシの司会でお届けした。

(7月31日 NHKホール)

⑤N響ウェルカム・コンサート（“夏のしぶやN響祭り”）

NHKホールでの定期公演再開に先立ち、新シーズン・プログラムの聴きどころを、指揮者の原田慶太楼がトークを交えて紹介。チケット料金を抑え、定期会員以外の音楽ファンにも気軽に足を運んでもらえる企画とした。

（8月24日 NHKホール）

⑥N響室内楽コンサート（“夏のしぶやN響祭り”）

フル・オーケストラとは一味違う室内楽コンサートを、N響が誇る名手たちの演奏でお楽しみ頂くスペシャル・プログラム。ストラヴィンスキー「管楽器のための七重奏曲」やモーツァルト「グラン・パルティータ」など、本格的な内容をお送りした。

（8月28日 白寿ホール）

⑦N響名曲コンサート2022

クラシックの名曲を楽しんでもらうコンサート。円熟味を増しつつある沼尻竜典の指揮で、ブラームス「交響曲第4番」など。期待の若手ヴァイオリニスト、金川真弓が、ブルッフ「スコットランド幻想曲」で圧倒的な技巧と歌心を披露した。

（9月5日 サントリーホール）

⑧「第九」演奏会

年末恒例の公演。2024年限りでの引退を表明したベテラン・井上道義が指揮台に立ち、本場ヨーロッパで活躍する名歌手たちをソリストに招いて行った。急遽代役として登板したジョージア出身のバス、ゴデルジ・ジャネリーゼが、第九初挑戦ながら迫力満点の歌唱を聴かせた。合唱は通常より少ない総勢80人。事前にPCR検査を実施し、個々人の間隔を広めにとった上でアクリル板を設置するなど、最善の感染防止策を施した。

（12月21、24、25日 NHKホール）

（12月27日 サントリーホール）

（4）全国各地での公演

①NHK各放送局との共催により、全国各地で実施する公演。2022年度は、ファビオ・ルイージが指揮する本土復帰50年記念の沖縄公演をはじめ、宮崎、大分、熊本、西宮、和歌山、堺、大阪の合計8都市で、N響の迫力ある演奏をお楽しみ

頂いた。

- (5月29日 沖縄コンベンションセンター)
- (2月25日 メディキット県民文化センター<宮崎県立芸術劇場>)
- (2月26日 iichiko 総合文化センター)
- (2月27日 熊本県立劇場)
- (3月18日 兵庫県立芸術文化センター)
- (3月19日 和歌山県民文化会館)
- (3月20日 フェニーチェ堺<堺市民芸術文化ホール>)

11月にはレナード・スラットキンの指揮により、NHK大阪ホールでヴォーン・ウィリアムズ《交響曲第5番》など、11月B定期と同じプログラムを演奏した。
(11月26日 NHK大阪ホール)

②NHK音楽祭 2022

注目の指揮者パブロ・エラス・カサドを迎え、ラヴェル「クープランの墓」と、マーラー《交響曲第5番》をお送りした。
(10月31日 NHKホール)

(5) 契約公演

2022年度に実施した契約公演は37公演。コロナ禍の影響による公演中止はほとんどなく、営業努力の成果も相まって、前年度の27公演に比べ、大幅な増加となった。

<都内>

東京・春・音楽祭（東京文化会館）、ゴールデン・クラシック（東京文化会館）、オーチャード定期（5月、7月、10月、2022年1月、3月、計5回）、かつしか、調布、東京国際音楽コンクール・入賞者コンサート（東京オペラシティ）、練馬、NTT東日本公演（東京オペラシティ）、N響第九チャリティーコンサート（NHKホール）、映像の世紀コンサート（オーチャードホール）、都民芸術フェスティバル（東京芸術劇場）

<関東の都市>

足利、川崎、所沢、市川、さいたま、横浜、高崎、厚木

<全国各地の都市>

軽井沢（長野県）、郡山（福島県）、大阪、安城（愛知県）、東広島（広島県）、福山（広島県）、京都、福井、いわき（福島県）、福岡、上田（長野県）、四日市（三重）、名古屋、呉（広島県）

※ マリア・ドゥエニャス&N響スペシャル・コンサート（4/26）は、ソリストの来日が叶わず、主催者判断で中止となった。

2. 放送への出演

（1）定期公演、特別公演の放送

定期公演（各2日間）の1日目はFMで生放送され、テレビは後日、Eテレ「クラシック音楽館」やBSプレミアム「プレミアムシアター」で放送。また6月と9月のAプログラムは8K映像、22.2音声で収録された。

また、「クラシック音楽館」では、夏恒例の「N響ほっとコンサート」が放送(8/21)された他、新しい首席指揮者ファビオ・ルイージの実像、国内の若手ソリストとの共演（4/22スタジオ収録）などの特集にも協力、出演した。

年末の「第九」演奏会はBS4K・8KとFMで生放送(12/24)され、Eテレでも大みそかに放送された。この他、「第九」演奏会ライブ・ビューイングがNHKの地域放送局で8K上映イベントとして行われた。（福岡局ほか）

（2）大河ドラマ、アニメの録音、出演

大河ドラマ「どうする家康」テーマ曲(10/4)に加え、2022年度は、高校のオーケストラ部を題材にした青春アニメで2023年4月からEテレで放送される「青のオーケストラ」のエンディングテーマも録音(1/19)した。演奏に関わった楽員が、このアニメの広報番組などに出演（3/16、3/20）し放送に協力した。

また、2022年2月の北京五輪に合わせてシンガーソングライターのmiletさんと共演したNHKのウィンタースポーツのテーマソング「Fly High」の録音は、12月の紅白歌合戦でも使用(12/31)された。

(3) 国際放送

海外向けの国際放送「NHKワールド JAPAN」によるN響の特集番組「Masterpieces performed by NHK Symphony Orchestra」は4年目を迎え、引き続き制作に協力した。8月と12月の2回にわたって、近年の当団の名演、計6番組が放送された他、NHKオンデマンドによって全世界に配信された。

また、NHKが連携する欧州放送連合EBCやアジア太平洋放送連合ABUに定期公演の音源を9本提供し、海外の放送局の音楽チャンネルなどで配信された。

(4) 放送記念日式典

放送記念日式典(3/17)がNHKホールで開催され、ウラディーミル・フェドセーエフの指揮で弦楽合奏の演奏を行った。

3. 広報・プロモーション

(1) 夏のしぶやN響まつり

コロナの影響などで減少した定期会員の回復と若いファンの獲得を目指して組織を上げて取り組んだキャンペーン。およそ2年ぶりにNHKホールで再開する定期公演の新シーズンを目前にした7月から8月にかけて、多彩なプロモーションによってN響のホームグラウンドへの復帰をアピールした。

①公園通り路上ライブ

ホールで行った本格的な3公演(「1. 演奏活動」の項を参照)と並行して、渋谷公園通りでは、地元の商店街と協力して初の路上ライブ発信(8/21)を行った。金管楽器のメンバーが場所を転々と移しながらジャズなどを交えて演奏し、若者や買い物客に新シーズンをPR。街角での演奏や楽員が移動する様子をInstagramで全国にライブ配信し、異色な街頭宣伝として反響を呼んだ。

②ウェルカム・コンサート mini♪

渋谷区の子育て支援センター(「co しぶや」)と共催し、幼い子どもとその親たちを対象にしたミニコンサート(8/25)を開催。神南の支援センターの施設では、弦楽四重奏のメンバーが子どもたちと会話をかわしながら、本格的なプログラムから坂本九のメドレーまで3回の入れ替え制で演奏した。

③広報活動

公園通り一帯で8月から9月の2週間、新しい首席指揮者ファビオ・ルイージをデザインした宣伝フラッグを街路灯に掲示した。JR山手線や横須賀線の車内のビジョン広告、渋谷駅前の大型ビジョンを使って新シーズンの開幕をPRし、ホームグラウンドでの演奏再開の機運を盛り上げた。

(2) アニメ「青のオーケストラ」との連動

若い世代への浸透と放送の支援を目的にした活動。2023年4月から放送されるアニメ「青のオーケストラ」(Eテレ)は、高校のオーケストラ部を舞台にしたコミックの番組化。クラシック音楽に関わる若者やアニメファンを中心に放送への期待は高く、N響は、エンディングテーマの演奏に関わった。放送を前に渋谷で行われたPRイベント(10/23)には、弦楽四重奏メンバーが参加し、劇中に登場するおなじみの名曲を披露した。同様のミニコンサートは、宮崎放送局イベント(1/22)、新宿「超体験NHKフェス」(3/19)でも行った。2023年5月には、池袋の東京芸術劇場で本格的な公演「N響×青のオーケストラコンサート」を予定している。地域放送局から番組に関連したイベントへの派遣要請もあり、引き続き期待に応じていく。

(3) 地域放送局とのタイアップ

NHKの地域放送局が主催したイベントに楽員が参加し、視聴者リレーション活動に協力しながら“身近なN響”をアピールした。2022年5月の沖縄本土復帰50年の記念イベントのひとつ「本土復帰50年 ゆいゆいクラシック」(4/24)には、N響の弦楽四重奏のメンバーが参加。地元のアーティストと“かりゆし姿”で共演しながら記念のムードを盛り上げた。この他、富山局新会館オープンイベント「NHK交響楽団ジョイフルコンサート」(6/15)、神戸市立博物館での「N響ミュージアムコンサート」(9/19)、鳥取局「砂上のコンサート」(2/4)、大阪駅での「NHK OSAKA CLASSIC」(3/3)などに楽員を派遣。地域放送局の独自イベントでのタイアップは、これまでで最も多くなった。イベントの様子は、地域の番組やニュースでも放送され、地方公演のPRにもつながった。

(4) 演奏会動画の配信

“N響公式YouTubeチャンネル”による演奏会動画の配信は、2021年度に1つの

特別公演からスタートしたが、2022年度は契約公演も含めて7公演に広げ、配信本数は一気に17本に増えた。こうした成果もあり2023年3月末現在のチャンネル登録者数は3万4千人（対前年比2.8倍）、視聴回数は261万（対前年比4.3倍）と急増した。このうち19%が海外からのもので、9%が台湾、2%がアメリカ、香港となっており、海外への有力な発信手段のひとつになっている。

また、演目別では、「N響ウェルカム・コンサート」（2022年8月24日 NHKホール収録）の43万回、「ラヴェル／ボレロ | 沖澤のどか」（2022年7月9日 Bunkamura オーチャードホール収録）の33万回、「ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」 | マレク・ヤノフスキ」（2022年5月8日 Bunkamura オーチャードホール収録）の23万回など、複数の動画で10万回を超える視聴回数を記録した。

（5）ホームページのリニューアルとSNS

ホームページを2022年7月に全面的にリニューアルした。デザインの刷新によってブランドイメージを向上させるとともに、スマートフォンの画面でもより見やすくなるように機能を高めた。また、2023年3月から楽員紹介の写真を更新するとともに、プロフィール、お客様へのメッセージを新たに盛り込むなど、コンテンツの充実を図っている。

SNS（Twitter、Facebook、Instagram）は、公演や放送の情報に加え、本番に向けての練習風景やフル・オーケストラ以外の室内楽の予告なども積極的に配信。Twitterのフォロワー数はおよそ6万人と、国内のオーケストラ団体では最多である。

また、2021年度から始めたオウンドメディア“note”では、指揮者のインタビューや楽員同士の対談に加え、これまでクラシック音楽に縁遠かった人たちに向けた入門編の記事も掲載。これを再編集して大人向けのクラシック入門の冊子を作成するなど幅広い層への浸透を図った。

（6）外国人への取り組み

2022年末から増えてきた訪日旅行者向けのチケット販売を強化するため、欧米で広く知られ、都内にもチケットショップを展開する販売業者と提携した。2023年1月からは一部の定期公演について店頭販売を試行。また、訪日旅行者が多く利用するホテルのコンシェルジュの方々に公演資料を送るなど広報プロモーションを始めた。

(7) N響創立100年に向けたプロジェクト

2026年の創立100周年に向けて立ち上げたプロジェクト。2年目に入った2022年度は、若手や中堅の職員たちが議論し、今後の指針となるスローガン「人生に彩りを N響100年」を決定。新首席指揮者の就任会見(5/24)や「夏のしぶやN響まつり」(7月～8月)の中でアピールした。また、プロジェクトの提言を踏まえ、NHKサービスセンターを通じてN響グッズを製作し、この販売を9月から2023年2月まで試験的に行うなど、来場者サービスの充実に意見を反映させた。7月には、新しい社会貢献のあり方を学ぶため、世界的な音楽教育の第一人者、マイケル・スペンサー氏の研修を2回にわたりオンラインで受講した。今後は、楽員たちとの意見交換の場としてスタートした「演奏制作検討委員会」とも連動して100周年に向けた計画を策定していく。

4. 社会貢献活動

N響は、2023年度にNHKグループの4財団(※)が合併して発足する「一般財団法人NHK財団」と法律上の親子関係を結んで統合する。N響は、この新しい財団とともにNHKグループの社会貢献事業の推進役を担う。2022年11月、新財団を構成する各団体と統合契約を交わすとともに社会や地域に役立つ活動をさらに充実させた。

※ NHKサービスセンター、NHKインターナショナル、NHKエンジニアリングシステム、NHK放送研修センター

(1) 財団統合に向けた取り組み —聴覚障がい者の鑑賞、新しい教育プログラム—

耳が不自由な方でも音楽を楽しむことができるシステムの開発に向けて、NHKホール、NHKエンジニアリングシステムと共同で2回にわたり検証実験を行った。「N響・夏」のリハーサル(7/15)では、聴覚に障がいのある11人の方々にヘッドフォンや特殊な磁界を発生させるヒアリンググループ、音を振動に換えるボディーソニックといった装置を体験してもらった。「N響ほっとコンサート」の本番(7/31)では、小中学生を含む9人の方々に体験してもらい感想や意見を頂いた。今後は、検証結果を踏まえ、NHKホールに装置を常設できる座席の開発、導入に向けて検討していく。

また、NHKサービスセンターなどと連携し、「N響と音楽体験！子どもたちのフューチャー・ラボ」と題した新しい教育プログラムの開発にもとりかかった。

N響の楽員が全国各地の小中学校へ出向いて音楽のワークショップを行う計画で、2023年度の実施を目指してNHKや地域放送局と検討を進めている。

(2) NHKこども音楽クラブ

次世代を育てる教育プログラムとしてNHKと共催し、「N響がやってきた」をキャッチフレーズに全国の小中学校を回ってミニコンサートを開いている。16年目となった2022年度は、北海道の陸別、浜頓別、えりもの3つの町を含め11か所12校を対象に行った。クラシックの名曲やアニメソングの演奏、それに校歌の合奏も交え、楽員と子どもたちが交流した。コンサートの模様は、地元の放送局のニュースなどに取り上げられた他、子どもたちの豊かな表情とともにコンパクトに編集され、NHKのホームページで紹介されている。

(3) N響といっしょ！音を楽しむ！！

就学前の幼い子どもたちを東京・高輪のN響の練習所にお招きし、楽器の音色を楽しんでもらう取り組み(8/30、12/26)。楽員が楽器のしくみを教えたり、鈴を鳴らして様々な情景を思い浮かべたりしながら音を奏でる楽しさを体感してもらった。2年目を迎えて、十分な感染対策のもとでの運営も定着し、地元の保育園児や保護者、保育士など招待者を徐々に増やした。子どもたちの豊かな心を育み、地域に貢献する活動として根付いてきた。

(4) 児童、生徒のバックステージツアー

25歳以下のユースチケットを共同購入された学校の児童や生徒の団体に本番前の舞台裏を案内するミニツアーを行った(11/13、11/19)。N響の職員が、これから演奏される曲の聴きどころや出演する指揮者のエピソードなどを紹介。また、ステージ上の楽器の配置やその周りで準備にあたるスタッフたちの役割などを説明した。普段は目に出来ないオーケストラの裏側や公演制作の一端に触れて頂くことで、クラシック音楽をより身近に感じてもらい次世代への文化の継承につながる。

(5) 被災地を応援する活動

2021年8月の西日本豪雨で被害を受けた広島県坂町の中学校(10/17)や2022年8月の豪雨災害の被災地、青森県鯉ヶ沢町の中学校(11/14)でミニコンサートを行った。「NHKこども音楽クラブ」の一環として訪ねたもので、鯉ヶ沢中学校の

体育館では、津軽三味線を学ぶ音楽部の生徒たちとも共演した。

また、東日本大震災の復興支援としてゲームソフトメーカーが福島県浪江町の道の駅（12/18）で行ったキャラクターショーに楽員を派遣し、集まった親子たちとふれあいの時間を過ごした。

（6）病院、施設への訪問

コロナ禍の影響で休止していた病院や施設への出前コンサートを再開した。山梨県の国立病院機構甲府病院（12/14～16）では、高度な医療ケアを必要とする患者さんやそのご家族たちと一足早いクリスマスミニ演奏会を開いた。また、東京のNTT東日本関東病院（1/31）では、広々としたロビーに多くの患者さんや病院関係者が集まり、室内楽を演奏した。この他、兵庫県加古川市（7/26）のお年寄りの施設を訪ね、ミニコンサートを行った。

（7）子供や留学生の招待

共働きや一人親世帯の子どもたちを支援するNPO法人と連携し、夏休みのファミリー向けの「N響ほっとコンサート」（7/31）に子どもたちを招待した。MCを務めた俳優のムロツヨシさんが軽妙なトークで会場を沸かせ、子どもたちの夏休みの思い出にして頂いた。首都圏の大学で学ぶ留学生の招待は、コロナの影響で休止していたが、一部の定期公演で再開した。

（8）公的団体と連携した室内楽演奏、音楽セミナー

広い世代にクラシック音楽に親しんでもらい、楽員と直接ふれあう場を提供するため、自治体や公益財団の要請を受けて様々なコンサートやセミナーを行った。東京都府中市と埼玉県草加市では、生涯学習の取り組みとして楽員による音楽講座を開催した。（4月～2月8回、7月～11月4回）。栃木県足利市（5/16）や広島県福山市（7/26）では、オーケストラ公演と前後して幼稚園や小中学校でアウトリーチコンサートを開催するなど、各地の教育プログラムに参加した。

（9）N響アカデミー

日本のオーケストラの若手演奏家の育成を目的に2003年にスタートした。これまでに53人の若手がこのアカデミーから巣立ち、N響を含め日本、海外のオーケストラなどで活躍している。受講生は、楽員から個別指導を受けたり、楽員の指導のもとで演奏会に出演したりして研鑽を積んでいる。また、2021年度からは

指揮研究員の枠を設け、著名な指揮者のアシスタントを務めながら実践的な訓練を行っている。2023年3月末現在、演奏者6人、指揮者2人の計8人が在籍している。

5. 特別支援・賛助会員・寄付

(1) 概要

賛助会員（1口50万円、個人を含む）の寄付は、前年度の組織を上げた取り組みでコロナ前とほぼ同じ水準まで戻し、2022年度がスタートした。国内の経済状況は、円安によるダメージなども加わって依然厳しい状況にあり、2022年度は、前年度実績の190社（人）、301口の維持、増加を目標に引き続き入会のお願いに力を入れた。その結果、2023年3月末現在、賛助会員は、199社（対前年比9社増）、320口（対前年比19口増）となった。一方、大口の特別支援は4団体を維持したが、前年度の1団体の減少は回復していない。

(2) リハーサル公開

ご支援下さる特別支援の団体や賛助会員の方々にN響の活動について理解を深めて頂くため、NHKホールで開催されるAプログラム初日の本番直前リハーサルを公開する試みを4回に分けて行った。（10/15, 12/3, 1/14, 2/4）。舞台上の指揮者や楽員の動き、練習のポイントなどを専門の解説者がイヤホンガイドを通じて説明した。今後、収容人数や対象となる公演などを検討しながらこの取り組みを進め、ご支援を頂く皆様との交流の場にしていきたい。

6. マネジメントの高度化と経営基盤の強化

(1) 財団統合の準備とマネジメントの高度化

2023年4月の財団統合は、NHKグループの社会貢献事業の強化とともに、N響のマネジメントをより高度で効率的なものにすることを目指している。2022年11月には、親財団の存続団体となるNHKサービスセンターなどと正式に統合契約を結び、事務インフラや経理システムを共通化するためのネットワークを整

備した。また、内部監査、管理会計、総務・IT関連、広報など4つの分野で、親財団に委託する業務を決め、統合によるガバナンスの強化と業務の効率化の下地を作った。

こうした統合の準備と並行して、公演会場の運営やチケットセールスを外部に委託し、生まれたパワーを新たな社会貢献などに振り向ける業務シフトも推進し、2023年度中に本格実施する。財務では、公演ごとの収支管理をより徹底し、予算の進捗や課題を職場全体で逐次、共有した。フィードバックを通じて目的意識を共有し、業務に反映させたことが決算の黒字にもつながった。また、内部監査では、担当者をNHKに派遣して実務研修させるなど人材の育成にも取り組んだ。

(2) テレワーク環境と情報セキュリティ

在宅や外勤先でのテレワークの進展にあわせ、事務局の職員に業務用スマートフォンの貸与を開始した。ウイルス感染や情報漏洩を防止するためのデバイス管理を徹底した。合わせてモバイルノートパソコンについても2023年度早々の配備に向けて調達を進めた。オンライン会議やポータルサイトによる情報の周知、スケジュールの管理などを安全かつ効率的に進めるためのテレワーク環境の整備は大きく前進した。一方、N響の各種システムに対するサイバー攻撃を防ぎ、不測の事態に対応するための訓練や標的型攻撃メールに対する訓練を実施した。こうした情報セキュリティについての勉強会も開き、職員の意識の向上と対応力の強化を図った。

(3) 安心して働ける職場環境の整備

2022年度、コロナの感染をめぐる公演活動への制限は徐々に緩和された。しかし、楽員や事務局職員、スタッフの安全を確保するため、独自に委嘱したアドバイザーの医師の指導のもと、職場での感染対策や基本ルールは継続した。2020年4月から毎週欠かさず全職員に送っている健康確認メールはすでに150回を超え、感染が疑われるケースの速やかな把握と感染防止に向けた情報の提供に役立てた。また、2022年度、楽員や事務局職員の定年年齢を60歳から65歳に引き上げる定年延長制度を導入した。職員のモチベーションの維持と高齢期の安定した雇用の確保につなげた。

7. 顕彰の実施

(1) 尾高賞

故・尾高尚忠氏の功績をたたえ、邦人作曲家による優れたオーケストラ作品を顕彰するために1952年に設けた作曲賞。70回目となる2022年度は、藤倉大氏の《尺八協奏曲》と一柳慧氏の遺作となった《ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲》が選ばれた。贈呈式と受賞作品の演奏は、2023年6月、東京オペラシティアコンサートホールで開催される「Music Tomorrow 2023」で行われる。

(2) 有馬賞

故・有馬大五郎氏（元・当団副理事長）の偉業を記念して、1981年に設けた賞で、当団の発展に功績のあった関係者、関係団体、職員が授賞の対象。2022年度は、1984年以来、福島県郡山市で数多くのN響の公演を開催し、地域の音楽文化の普及と当団の演奏活動への理解促進に多大な貢献した公益財団法人郡山市文化・学び振興公社に授与した。

8. 法人の概況

1. 設立年月日

1942年4月27日

1926年10月5日 「新交響楽団」（任意団体）設立

1942年4月27日 「財団法人 日本交響楽団」設立

1951年8月1日 「財団法人 NHK交響楽団」に改称

2010年4月1日 「公益財団法人 NHK交響楽団」設立

2. 目的

交響管弦楽により、わが国音楽芸術の向上発展を図り、その社会文化使命を達成することをもって目的とする。

3. 事業内容

- (1) 放送演奏
- (2) 公開演奏
- (3) 演奏に必要な研究ならびに施設の運営
- (4) 機関雑誌の発行
- (5) その目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁

内閣府

5. 会員状況（2023年3月31日現在）

(1) 定期会員 7,775人

(2) 賛助会員 199社（人） 320口（1口50万円）

6. 特別支援・協力企業

(1) 特別支援企業

岩谷産業株式会社、三菱地所株式会社、株式会社みずほ銀行、
公益財団法人渋谷育英会

(2) 特別協力企業

BMWジャパン、全日本空輸株式会社、ヤマハ株式会社、
株式会社パレスホテル

7. 事務所所在地

事務所・練習場・N響ガイド（入場券販売業務）

東京都港区高輪 2-16-49

9. 処務の概況

1. 理事・監事および評議員に関する事項

(1) 理事・監事

(2023年3月31日現在)

役 職	氏 名	担当職務・現職
理 事 長	今村 啓一	
常務理事	中野谷 公一	経営管理
常務理事	三溝 敬志	演奏制作・事業広報
理 事	相川 直樹	慶應義塾大学 名誉教授
理 事	内永 ゆか子	NPO 法人 J-Win 会長理事
理 事	岡田 知之	洗足学園音楽大学 名誉教授
理 事	木村 恵司	三菱地所(株) 特別顧問
理 事	銭谷 眞美	新国立劇場運営財団 理事長
理 事	團 宏明	通信文化協会 会長
理 事	毛利 衛	日本科学未来館 名誉館長、宇宙飛行士
監 事	江口 貴之	日本放送協会 グループ経営戦略局 局長
監 事	浜村 和則	公認会計士

(2) 評議員

(2023年3月31日現在)

役 職	氏 名	現 職
評 議 員	稲葉 延雄	日本放送協会 会長
評 議 員	江頭 敏明	三井住友海上火災保険(株) 特別顧問
評 議 員	清野 智	国際観光振興機構 理事長
評 議 員	檀 ふみ	女優
評 議 員	土井 成紀	(株)NHK出版 代表取締役社長
評 議 員	野口 周一	(株)NHKテクノロジーズ 代表取締役社長
評 議 員	前田 昭雄	上野学園大学 学長
評 議 員	松崎 和義	NHK厚生文化事業団 理事長
評 議 員	松本 浩司	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長
評 議 員	三浦 惺	日本電信電話(株) 特別顧問
評 議 員	渡邊 修	石油資源開発(株) 代表取締役会長

2. 理事・監事および評議員の異動に関する事項

区 分	年 月 日	辞任・退任	新 任
評議員	2022年6月20日	海老澤 敏	清野 智
評議員	2022年6月20日	鈴木 賢一	松崎 和義
監 事	2022年6月20日	春原 雄策	高田 仁
評議員	2023年1月31日	前田 晃伸	稲葉 延雄
監 事	2023年1月31日	高田 仁	江口 貴之

3. 職員に関する事項

(2023年3月31日現在)

職 種	人 数	平均年齢
楽 員	97人	45.2歳
事務職員	20人	48.9歳
嘱託職員	15人	58.7歳
合計または平均	132人	47.3歳

注) 2023年3月31日退職者は含まず。

4. 会議に関する事項

(1) 理事会の開催状況 (書面決議の場合、年月日は決裁日)

区 分	年 月 日	議 題
第66回理事会 (リモート)	2022年5月26日	1. 業務運営状況報告 2. 2021年度事業報告及び収支決算 3. 第38回評議員会の開催
第67回理事会 (書面)	2022年6月8日	1. 第38回評議員の開催に監事の選任を追加
第68回理事会 (書面)	2022年6月27日	1. 代表理事(理事長)の選定 2. 業務執行理事(常務理事)の選定 3. 常勤理事の報酬額決定の件 4. 主任監事の報酬額決定の件
第69回理事会 (書面)	2022年11月1日	1. 統合契約書締結の件 2. 第39回評議員会の開催

第70回理事会 (書面)	2023年1月19日	1. 評議員・監事の選任 2. 第40回評議員会の開催
第71回理事会 (書面)	2023年2月15日	1. 第41回評議員会の開催
第72回理事会	2023年3月13日	1. 2023年度事業計画及び収支予算 2. 監事報酬支給規程の一部変更 3. 定款の一部変更

(2) 評議員会の開催状況 (書面決議の場合、年月日は決裁日)

区 分	年 月 日	議 題
第38回評議員会 (リモート)	2022年6月20日	1. 2021年度事業報告及び収支決算 2. 評議員・理事・監事の選任
第39回評議員会 (リモート)	2022年11月24日	1. 評議員・理事の選任
第40回評議員会 (書面)	2022年1月31日	1. 評議員・監事の選任
第41回評議員会	2023年3月13日	1. 2023年度事業計画及び収支予算 2. 監事報酬支給規程の一部変更 3. 定款の一部変更

10. 理事および監事に支払った報酬の額

当事業年度における当財団の理事および監事に対する報酬の内容は以下の通り。

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象となる 役員数(人)
		定額部分	変動部分	
理 事	46,200	37,170	9,030	3
監 事	2,520	2,520	0	1

※当事業年度末の人員数は理事10名、監事2名。うち非常勤理事7名、非常勤監事1名は無報酬であり、上記人員には含まれていない。

(参考資料)

2022年度 公演概要

公演	年間公演回数	年間入場者	内容
定期公演 (4~2月)	52回	95,201人	Aプログラム 18回 (東京芸術劇場、NHKホール) Bプログラム 16回 (サントリーホール) Cプログラム 18回 (NHKホール)
特別公演	11回	23,772人	Music Tomorrow、N響「夏」、松山定期演奏会、N響ほっとコンサート、N響ウェルカム・コンサート、N響室内楽コンサート、名曲コンサート、「第九」演奏会4回
地方公演	9回	14,325人	沖縄、宮崎、大分、熊本、西宮、和歌山、堺、NHK音楽祭、大阪
放送・録音 演奏	4回	—	武満徹 映画・ドラマ曲集 クラシック音楽館 「大河ドラマ」テーマ曲録音 放送記念日
契約公演	36回	—	東京・春・音楽祭 (東京文化会館)、ゴールデン・クラシック (東京文化会館)、オーチャード定期 (5月、7月、10月、2022年1月、3月、計5回)、かつしか、調布、東京国際音楽コンクール・入賞者コンサート (東京オペラシティ)、練馬、NTT東日本公演 (東京オペラシティ)、N響第九チャリティーコンサート (NHKホール)、都民芸術フェスティバル (東京

			芸術劇場)、足利、川崎、所沢、市川、さいたま、横浜、高崎、厚木、軽井沢(長野県)、郡山(福島県)、大阪、安城(愛知県)、東広島(広島県)、福山(広島県)、京都、福井、いわき(福島県)、福岡、上田(長野県)、四日市(三重)、名古屋、呉(広島県)
--	--	--	---

2022年度 演奏活動実績

◆定期公演 2021-22 シーズン (A, C : 東京芸術劇場、B : サントリーホール)

4月	A	第1954回 4/9, 10 東京芸術劇場 指揮：クリストフ・エッシェンバッハ Fl : スタティス・カラパノス ドヴォルザーク：序曲「謝肉祭」作品92 モーツァルト：フルート協奏曲 第1番 ト長調 K. 313 ベートーヴェン：交響曲 第7番 イ長調 作品92
	C	第1955回 4/15, 16 東京芸術劇場 指揮：クリストフ・エッシェンバッハ マーラー：交響曲第5番 嬰ハ短調
5月	A	第1956回 5/14, 15 東京芸術劇場 指揮：マレク・ヤノフスキ Vn : アリョーナ・バーエワ シューマン：ヴァイオリン協奏曲 二短調 シューベルト：交響曲 第8番 ハ長調 D. 944 「ザ・グレート」
	B	第1958回 5/25, 26 サントリーホール 指揮：ファビオ・ルイーヂ Pf : 小菅優 メンデルスゾーン：序曲「静かな海と楽しい航海」作品27 ラヴェル：ピアノ協奏曲 ト長調 リムスキー・コルサコフ：交響組曲「シェエラザード」作品35
	C	第1957回 5/20, 21 東京芸術劇場 指揮：ファビオ・ルイーヂ Pf : アレクサンドル・メルニコフ モーツァルト：歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲 モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番 二短調 K. 466 ベートーヴェン：交響曲第8番 ヘ長調 作品93

6月	A	第1959回 6/11,12 東京芸術劇場 指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ S：ステファニー・ドゥストラック デュカス：バレエ音楽「ペリ」 ラヴェル：シェエラザード ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲 フロラン・シュミット：バレエ組曲「サロメの悲劇」作品50
	B	第1961回 6/22,23 サントリーホール 指揮：鈴木優人 Vn：郷古廉 バッハ（鈴木優人編）：パッサカリアとフーガ ハ短調 BWV582 ブリテン：ヴァイオリン協奏曲 作品15 (B定期) モーツァルト：交響曲 第41番 ハ長調 K. 551 「ジュピター」
	C	第1960回 6/17,18 東京芸術劇場 指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ Org：オリヴィエ・ラトリー プーランク：バレエ組曲「牝鹿」 プーランク：オルガン協奏曲 ト短調 ガーシュウィン：パリのアメリカ人

◆定期公演 2022-23 シーズン (A, C：NHKホール、B：サントリーホール)

9月	A	第1962回 9/10,11 指揮：ファビオ・ルイージ S：ヒブラ・ゲルズマーワ、Ms：オレシア・ペトロヴァ T：ルネ・バルベラ、B：ヨン・グアンチョル 合唱：新国立劇場合唱団 ヴェルディ：レクイエム
	B	第1964回 9/21,22 指揮：ファビオ・ルイージ Vn：ジェームズ・エーネス ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61 ブラームス：交響曲第2番 ニ長調 作品73
	C	第1963回 9/16,17 指揮：ファビオ・ルイージ Ob：エヴァ・スタイナー ～オール・R. シュトラウス・プログラム～ 交響詩「ドン・ファン」 作品20 オーボエ協奏曲 ニ長調 AV. 144 歌劇「ばらの騎士」組曲
10月	A	第1965回 10/15,16 指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット マーラー：交響曲第9番 ニ長調
	B	第1967回 10/26,27 指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット Pf：オリ・ムストネン グリーク：ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ニルセン：交響曲第3番 ニ短調 「広がり」

	C	第 1966 回 10/21, 22 指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット シューベルト：交響曲第 1 番 ニ長調 D. 82 シューベルト：交響曲第 6 番 ハ長調 D. 589
11 月	A	第 1968 回 11/12, 13 指揮：井上道義 伊福部昭：シンフォニア・タブカーラ ショスタコーヴィチ：交響曲第 10 番 ホ短調 作品 93
	B	第 1970 回 11/23, 24 指揮：レナード・スラットキン Vn：レイ・チェン ヴォーン・ウィリアムズ：「富める人とラザロ」の 5 つのヴァリエーション メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品 64 ヴォーン・ウィリアムズ：交響曲第 5 番 ニ長調
	C	第 1969 回 11/18, 19 指揮：レナード・スラットキン コープランド：バレエ音楽「アパラチアの春」＜全曲版＞ コープランド：「ロデオ」＜全曲版＞
12 月	A	第 1971 回 12/3, 4 指揮：ファビオ・ルイージ Ms：藤村実穂子 ワーグナー：ヴェーゼンドンクの 5 つの詩 ブルックナー：交響曲第 2 番 ハ短調 [初稿/1872 年版]
	B	第 1973 回 12/14, 15 指揮：ファビオ・ルイージ Pf：河村尚子 グリムカ：歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第 2 番 ハ短調 作品 18 ドヴォルザーク：交響曲第 9 番 ホ短調 作品 95
	C	第 1972 回 12/9, 10 指揮：ファビオ・ルイージ モーツァルト：交響曲 第 36 番 ハ長調 K. 425 「リンツ」 メンデルスゾーン：交響曲第 3 番 イ短調 作品 56 「スコットランド」
1 月	A	第 1974 回 1/14, 15 指揮：トゥガン・ソヒエフ Pf：ハオチェン・チャン ブラームス：ピアノ協奏曲第 2 番 変ロ長調 作品 83 ベートーヴェン：交響曲第 4 番 変ロ長調 作品 60
	B	第 1976 回 1/25, 26 指揮：トゥガン・ソヒエフ Va：アミハイ・グロス バルトーク：ヴィオラ協奏曲 ラヴェル：「ダフニスとクロエ」組曲第 1 番、第 2 番 ドビュッシー：交響詩「海」
	C	第 1975 回 1/20, 21 指揮：トゥガン・ソヒエフ ラフマニノフ：交響的幻想曲「岩」 作品 7 チャイコフスキー：交響曲第 1 番 ト短調 作品 13 「冬の日の幻想」

2月	A	第 1977 回 2/4, 5 指揮：尾高忠明 Vc：宮田大 尾高尚忠：チェロ協奏曲 イ短調 作品 20 パヌフニク：カティンの墓碑銘 ルトスワフスキ：管弦楽のための協奏曲
	B	第 1979 回 2/5, 16 指揮：ヤクブ・フルシャ Pf：ピョートル・アンデルジェフスキ ドヴォルザーク：序曲「フス教徒」 作品 67 シマノフスキ：交響曲第 4 番 「協奏交響曲」 作品 60 ブラームス：交響曲第 4 番 ホ短調 作品 98
	C	第 1978 回 2/10, 11 指揮：ヤクブ・フルシャ バーンスタイン：「ウェストサイド物語」から「シンフォニック・ダンス」 ラフマニノフ：交響的舞曲 作品 45

◆特別公演

7月	Music Tomorrow 2022 <7/1> 東京オペラシティ 指揮：イラン・ヴォルコフ Vc：オーレン・シェヴリン Vn：郷古廉 西村朗：華開世界—オーケストラのための（第 69 回尾高賞受賞作） 岸野末利加：チェロとオーケストラのための「雷神の言葉」 （第 69 回尾高賞受賞作、日本初演） 細川俊夫：ヴァイオリン協奏曲「ゲネシス」 （ハンブルク・フィル、香港シンフォニエッタ、広響、N響、プラハ放送響、 グラフェネッグ音楽祭共同委嘱 日本初演）
	松山定期演奏会 <7/17> 愛媛県民文化会館 指揮：尾高忠明 Pf：小曾根真 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第 2 番 ハ短調 作品 18 チャイコフスキー：交響曲第 4 番 ヘ短調 作品 36
	ほっとコンサート <7/31> NHKホール 指揮：下野竜也 Vn：篠崎史紀、ジュニアソリスト Vc：辻本玲、語り・歌 三宅理恵 ワーグナー：歌劇「ローエングリン」から 第 3 幕への前奏曲 林光（宮沢賢治原作：オーケストラのための童話「セロ弾きのゴーシュ」） J. シュトラウス 2 世：ウィーンの森の物語 バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲ニ短調から 第 1 楽章 ラヴェル：ボレロ

8月	N響ウェルカム・コンサート <8/24> NHKホール 指揮：原田慶太楼 Pf：奥井紫麻、Hr：福川伸陽、司会：大林奈津子 グリンカ：歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲 R. シュトラウス： 歌劇「ばらの騎士」～「ワルツ・シークエンス」第1番（抜粋） ショスタコーヴィチ：交響曲第10番 ホ短調から 第2楽章 モーツァルト：ホルン協奏曲第3番 変ホ長調から 第3楽章 グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調から 第1楽章 ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲から「アンダンテ・カンタービレ」 ラフマニノフ：ヴォカリーズ バーンスタイン：「ウェストサイド物語～シンフォニック・ダンス」から「マンボ」 コープランド：バレエ音楽「ロデオ」から「ホーダウン」
	N響室内楽コンサート <8/28> 白寿ホール ヒンデミット：管楽器のための七重奏曲 ストラヴィンスキー：管楽器のための八重奏曲 モーツァルト：セレナード第10番 変ロ長調「グラン・パルティータ」K. 361
9月	明電舎 presents N響名曲コンサート2022 <9/5> サントリーホール 指揮：沼尻竜典 Vn：金川真弓 シベリウス：フィンランディア 作品26 ブルッフ：スコットランド幻想曲 作品46 ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 作品98
12月	「第9」演奏会 <12/21, 24, 25> NHKホール 指揮：井上道義 S：クリスティーネ・ランツハマー、Ms：藤村実穂子、 T：ベンジャミン・ブルンス、B：ゴデルジ・ジャネリーゼ 合唱/新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ ベートーヴェン：交響曲第9番 ニ短調 作品125 「合唱つき」
	かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert <12/27> サントリーホール 指揮：井上道義 S：クリスティーネ・ランツハマー、Ms：藤村実穂子、 T：ベンジャミン・ブルンス、B：ゴデルジ・ジャネリーゼ 合唱/新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ オルガン：勝山雅世* ダカン：ノエル集 作品2—第10曲「グランジュとデュオ」ト長調* ラインケン：フーガ ト短調* バッハ：前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545* ベートーヴェン：交響曲 第9番 ニ短調 作品125 「合唱つき」

◆地方公演

5月	沖縄本土復帰50年公演<5/29>沖縄コンベンションセンター 指揮：ファビオ・ルイージ Pf：小菅優 メンデルスゾーン：序曲「静かな海と楽しい航海」作品27 ラヴェル：交響曲第5番 嬰ハ短調 リムスキー・コルサコフ：交響曲「シェエラザード」作品35
----	---

10月	NHK音楽祭 <10/31> NHKホール 指揮：パブロ・エラス・カサド ラヴェル：ピアノ協奏曲ト長調 マーラー：交響曲第5番 嬰ハ短調
11月	大阪公演 <11/26> NHK大阪ホール 11月B定期と同プログラム
2月	宮崎公演 <2/25> メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場） 大分公演 <2/26> iichiko 総合文化センター 熊本公演 <2/27> 熊本県立劇場 指揮：尾高忠明 Vn：辻彩奈 メンデルスゾーン：序曲「フィンガルの洞窟」作品26 ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 作品26 ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 作品92
3月	西宮公演 <3/18> 兵庫県立芸術文化センター 和歌山公演 <3/19> 和歌山県民文化会館 堺公演 <3/20> フェニーチェ堺<堺市民芸術文化ホール>) 指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ Pf：小山実稚恵 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18 チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 作品64

◆放送・録音演奏

4月	CD録音 <4/18,19> 指揮：尾高忠明 武満徹 映画・ドラマ曲集
	収録 <4/22> 指揮：梅田俊明 クラシック音楽館 若手ソリストとの共演（HIMARI、亀井聖矢）
10月	録音 <10/4> 指揮：尾高忠明 大河ドラマ「どうする家康」テーマ曲
3月	放送記念日・記念演奏 <3/17> NHKホール 指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ チャイコフスキー：弦楽セレナーデ ハ長調 作品48 から 第1楽章

◆契約公演

4月	東京・春・音楽祭 <4/2> 東京文化会館 指揮：マレク・ヤノフスキ ワーグナー：楽劇「ローエングリン」（演奏会形式）
----	---

5月	<p>ゴールデン・クラシック <5/3> 東京文化会館 指揮：高関健 Vn：周防亮介 チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 35 チャイコフスキー：交響曲第 5 番 ホ短調 作品 64</p>
	<p>軽井沢公演 <5/4 軽井沢大賀ホール> ゴールデン・クラシック<5/3>と同プログラム</p>
	<p>オーチャード定期 <5/8> オーチャードホール 指揮：マレク・ヤノフスキ ベートーヴェン：エグモント序曲 ベートーヴェン：交響曲第 1 番 ハ長調 作品 21 ベートーヴェン：交響曲第 5 番 ハ短調 作品 67</p>
6月	<p>かつしか公演 <6/4> かつしかシンフォニーヒルズ 指揮：秋山和慶、 Vn：荒井里桜 ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第 1 番 ト短調 作品 26 ブラームス：交響曲第 1 番 ハ短調 作品 68</p>
	<p>足利公演 <6/5> 足利市民プラザ かつしか公演<6/4>と同プログラム</p>
	<p>調布音楽祭 2022 <6/26> 調布市グリーンホール 6月B定期と同プログラム</p>
7月	<p>東京国際音楽コンクール<指揮>入賞者コンサート <7/5> 東京オペラシティ チャイコフスキー：幻想的序曲「ロメオとジュリエット」 指揮：米田覚士（日本）入選 ワーグナー：楽劇「トリスタンとイゾルデ」から前奏曲と愛の死 指揮：サミー・ラシッド（フランス）2位 シューマン：交響曲第 1 番変ロ長調「春」作品 38 指揮：ジョゼ・ソアーレス（ブラジル）1位</p>
	<p>オーチャード定期 <7/9> オーチャードホール 指揮：沖澤のどか Fl：エマニュエル・パユ* プーランク：バレエ組曲「牝鹿」 プーランク：フルート・ソナタ(L.パーカーによるフルートと管弦楽編)* フォーレ（オーベール編）：幻想曲作品 79* ラヴェル：マ・メール・ロワ組曲 ラヴェル：ボレロ</p>
	<p>郡山公演 <7/10> 郡山市民文化センター オーチャード定期<7/9>と同プログラム</p>
	<p>N響「夏」大阪 2022 <7/16> ザ・シンフォニーホール N響「夏」<7/15>と同プログラム</p>
	<p>アイシン・エイ・ダブリュ公演 <7/23> アイシン・エイ・ダブリュ・ハーモニーホール 指揮：角田鋼亮 Pf：小山実稚恵 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第 5 番 変ホ長調 作品 73「皇帝」 ベートーヴェン：交響曲第 5 番 ハ短調 作品 67「運命」</p>

	東広島公演 <7/24> 東広島芸術文化ホールくらら アイシン・エイ・ダブリュ公演<7/23>と同プログラム
	福山公演 <7/25> ふくやまリーデンローズ アイシン・エイ・ダブリュ公演<7/23>と同プログラム
	サマーフェスタ・ミューザ 2022 <7/30> ミューザ川崎 指揮：下野竜也 Vn:三浦文彰 バッハ（レーガー編：コラール前奏曲「おお人よ、お前の罪に泣け」BWV622 ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 作品26 ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 作品92
8月	京都公演 <8/20> ロームシアター京都 指揮：秋山和慶 Vc：宮田大 ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 ロ短調 作品104 ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 作品92
9月	練馬公演 <9/1> 練馬文化センター 指揮：原田慶太楼 Vn・語り：大谷康子* ヘンデル：「王宮の花火の音楽」序曲（ハーティ版） エルガー：愛のあいさつ ヴォーン・ウィリアムズ（ラルフ・グリーヴズ編： グリーンスリーブスの主題による幻想曲 ブリテン：青少年のための管弦楽入門 作品34 メンデルスゾーン：序曲「フィンガルの洞窟」作品26 ホルスト：ヴァイオリンと管弦楽のための「夜の歌」 ヘス：ラベンダーの咲く庭で エルガー：「威風堂々」第1番 作品39
	所沢公演 <9/24> 所沢ミューズ 9月B定期と同プログラム
	福井公演 <9/25> ハーモニーホールふくい 9月B定期と同プログラム
10月	市川公演 <10/1> 市川市文化会館 アレキサンダー・リープライヒ Pf：小菅優 モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 モーツァルト：交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」
	埼玉公演 <10/2> 埼玉会館 市川公演<10/1>と同プログラム
	オーチャード定期 <10/8> オーチャードホール 指揮：サッシヤ・ゲッツェル Pf：牛田智大 グリーグ：「パール・ギェント」組曲第1番 作品46から「朝」 グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 シベリウス：交響曲第2番 ニ長調 作品43
	いわき公演 <10/9> いわきアリオス オーチャード定期<10/8>と同プログラム

11月	<p>横浜公演 <11/3> 横浜みなとみらいホール 指揮：井上道義 CT：藤木大地、Org：近藤岳 J. シュトラウス 2 世：ワルツ「南国のバラ」作品 388 マーラー：リュッケルトの詩による 5 つの歌曲 サン・サーンス：交響曲第 3 番 ハ短調 作品 78 「オルガンつき」</p>
	<p>N T T 東日本公演 <11/7> 東京オペラシティ 指揮：広上淳一 Pf：小林愛実 ～オール・ベートーヴェン・プログラム～ 「コリオラン」序曲 作品 62 ピアノ協奏曲第 1 番 ハ長調 作品 15 交響曲第 5 番 ハ短調 作品 67 「運命」</p>
	<p>福岡公演 <11/27> アクロス福岡 11 月 B 定期と同プログラム</p>
12月	<p>N 響第九チャリティーコンサート <12/22> NHKホール 指揮：井上道義 S：クリスティアーネ・ランツハマー、Ms：藤村実穂子、 T：ベンジャミン・ブルンス、B：ゴデルジ・ジャネリーゼ 合唱/新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ ベートーヴェン：交響曲第 9 番 ニ短調 作品 125 「合唱つき」</p>
1月	<p>オーチャード定期 <1/8> オーチャードホール 指揮：沼尻竜典 S：砂川涼子、T：宮里直樹 R. シュトラウス：歌劇「カプリッチョ」から六重奏曲（弦楽合奏版） R. シュトラウス：歌劇「ばらの騎士」組曲 J. シュトラウス 2 世：喜歌劇「こうもり」序曲 J. シュトラウス：喜歌劇「ヴェネツィアの一夜」から「僕のゴンドラにいらっしゃい」 レハール：喜歌劇「ジュディッタ」から「私の唇は熱いキスをする」 ヨーゼフ・シュトラウス：ワルツ「天体の音楽」 レハール：喜歌劇「微笑みの国」から「君こそ我が心のすべて」 ジーツィンスキー：「ウィーン、わが夢の街」 J. シュトラウス 2 世：ワルツ「美しく青きドナウ」 レハール：喜歌劇「メリー・ウイドウ」から二重唱「閉ざした唇に」</p>
	<p>上田公演 <1/9> 上田市交流文化芸術センター オーチャード定期<1/8>と同プログラム</p>
	<p>高崎公演 <1/28> 高崎芸術劇場 1 月 B 定期と同プログラム</p>
2月	<p>四日市公演 <2/18> 四日市市文化会館 2 月 B 定期と同プログラム</p>
	<p>名古屋公演 <2/19> 愛知県芸術劇場 2 月 B 定期と同プログラム</p>
3月	<p>映像の世紀コンサート <3/3>オーチャードホール 指揮：下野竜也 Pf：加古隆、ナレーション：山根基世</p>

	<p>都民芸術フェスティバル <3/7> 東京芸術劇場 指揮：梅田俊明 Pf：吉川隆弘 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番 ハ短調 作品37 ベートーヴェン：交響曲第3番 変ホ長調 作品55「英雄」</p>
	<p>オーチャード定期 <3/11> オーチャードホール 指揮：ケリーリン・ウィルソン Vn：HIMARI チャイコフスキー：イタリア奇想曲 作品45 パガニーニ：ヴァイオリン協奏曲第1番 ニ長調 作品6 プロコフィエフ：バレエ「ロメオとジュリエット」組曲第2番</p>
	<p>厚木公演 <3/12> 厚木市文化会館 オーチャード定期<3/11>と同プログラム</p>
	<p>呉公演 <3/21>呉信用金庫ホール 指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ Pf：小山実稚恵 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18 チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 作品64</p>